

命のきずな

平成二十三年（二〇一一）年三月十一日、東北地方に震度七の大きな地震が起き、その後さらに大津波がおそいました。特に津波のひ害が大きかったそうです。

四月九日、私のクラスに福島県から女の子が転校してきました。みんなは、ふうちゃんとよんでいました。

はじめは、みんなと言葉がちがうことを気にして、はずかしそうにしていましたが、私たちは、全然気になりませんでした。だから、すぐに仲良くなっって、いろいろな話をしたり、運動場で楽しく遊んだりしました。

でも、ふうちゃんは一学期が終わって福島へ帰っていききました。もっとふうちゃんとい

っしょに遊びたかったのに、とてもさびしかったです。



二学期になって、先生が私たちに、ふうちゃんの作文を読んでくれました。

『私の大好きな家族』

私は八人家族でした。

大きな地震の後に大きな津波がきて、私とママとおねえちゃん、にげたので助かりました。パパはお仕事に行っていたので助かりました。ひいじいちゃんも逃げて助かりました。おじいちゃんとおばあちゃんとおじちゃんは、津波に流されてしまい、おばあちゃんだけは助かりました。私の家族が六人になってしまいました。とても悲しくていっぱい泣きました。家も流されてしまい、大事にしていたものが全部なくなってしまいました。おじいちゃんはいつもやさしくしてくれて、とっても大好きでした。おじちゃんもすぐくやさしくしてくれていつも笑っていました。「津波が来なければおじいちゃんとおじちゃんは死ななかったのになあ。」と今でも思います。

それから私たちは神戸にきました。ママのおなかに赤ちゃんがいたので、ひ難なんしてきました。最初学校へ行ったときは生徒がいっぱいいたのでとてもはずかしかったです。仲のよい友だちもできました。

五月にママが赤ちゃんを産みました。女の子で「きずな」という名前です。

名前は、ひいじいちゃんが
つけてくれました。名前の
意味は、人と人がきずなで
つながっているからです。
だから私も神戸で生活がで
きているのです。わたしに
も妹ができました。これか
らはおねえちゃんらしくし
ていきます。津波でおじい
ちゃんとおじちゃんをなく
したけれど、家族が一人増
えて、七人家族になりました。
でも、わたしの心の中ではいつまでもおじいちゃんとおじ
ちゃんは生きています。七月二十七日に福島に帰ります。



作文を聞き終えた後、明るくふるまっていたふうちゃんにも、
つらい思いや決意があることを知りました。また、夏休みにふう
ちゃんに会いに行った先生方から、ふうちゃんの家族の話を聞く
ことができました。

地震や津波、放射能のひ害など、まだまだ復興には時間がかか
ります。そんな中でも、ふうちゃんの家族は、ふるさとで過ごし
たいという家族の思いを大切にして、福島県へ帰ったのだそうで
す。

私たちは、みんなでふうちゃんに手紙を書きました。そして、
少しでも復興に役立つことはできないかと話し合いました。



津波で流されてしまったふうちゃんの家のあと